

「動植物観察ガイド」

名護岳登山道

ハイキングコース



沖縄県立
名護青少年の家
Okinawa Prefectural Nago Youth Center

Web : <http://www.opnyc.jp/> TEL : 0980-52-2076

指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

本ガイドは、平成25年度沖縄県生物多様性プラザ事業の補助金を受けて作成しています



やんばるの入口である「名護岳」は、一帯が信仰の対象とされているため、良好なイタジを中心とする森林植生が残っています。林内にはアカギの大木等も散見でき、道路沿いはシダ植物の宝庫となっています。平成25年4月に我々沖縄美ら島財団が行った資源調査において、ハイキングコース沿いで86科159属208種以上の植物を確認しました。このような多様な植物種により、それに依存する多種多様な生物が名護岳には生息しています。

たとえば、鳥類。ひとたび森へ入り、耳を澄ませば様々な鳴き声を聞くことができます。名護岳一帯では、近年の名護市動植物総合調査では総計23科50種の鳥類が記録されており、この地域の207haは特別鳥獣保護区にも指定されています。市街地に近い立地にもかかわらず、国指定の天然記念物であるカラスバトや特別天然記念物のノグチゲラの生息が確認されていることは特筆すべきことです。

このほか、鳥類のエサとなる昆虫類も豊かな森林地域に支えられ、多様性に富んでいます。名護岳はイタジ林のある常緑広葉樹林が主ですが、それに依存した昆虫が多く生息しています。ハイキングコースの一つである「沢コース」では山地渓流性のトンボ類が、リュウキュウマツ林がある場所ではそれに依存した昆虫類が、それぞれ見られます。名護市動植物総合調査報告によると、12目73科162種の昆虫類が名護岳で確認されています。特に、鱗翅目(チョウ類)が多く、コノハチョウとフトオチョウは名護岳にも生息する天然記念物です。

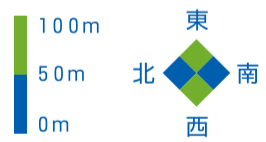
また、名護岳周辺は世界中でも沖縄島にしかない「固有種」の生息率が高い地域でもあり、前述の名護市動植物総合調査報告でも7目22科30種の固有種が確認されています。ハイキングコースでも沖縄島北部の固有の植物種であるコバノミヤマノボタンや、淡水魚類の固有種であるアオバラヨシノボリ等が見られます。このほか、爬虫類や両生類では、クロイワトカゲモドキやイボイモリ等の天然記念物も生息しています。

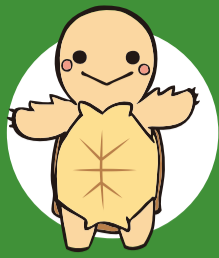
市街地からほんの少し登った名護岳が、これほどの多様性に富み、かつ希少性の高い生物にあふれていることは、意外なこともかもしれません。この先は、ぜひあなたの足で森を歩き、あなたの目で本物を確かめてみてください。本ガイドが自然への理解、気づきの一助となりますように……。

<参考文献>名護市天然記念物調査シリーズ第6集「名護岳」名護市動植物総合調査報告2003~2005/企画展名護やんばるの野鳥(1990年9月)/名護市動植物総合調査報告4名護市の淡水魚類(1999年3月)/名護市ホームページ/名護青少年の家広報誌かわら版5月号など

- Aコース —
- Bコース —
- Cコース —
- 登山コース —
- 沢コース —
- 南展望台コース —

※コース上の1~14のポイントには「名護青少年の家」の看板があります





ハイキングを 楽しもう

自然と発見がいっぱいの
ハイキング&登山コース。
深呼吸してのんびり歩こう。

イボイモリ

【方言名】 ソーミグヤー
【体長】 72~100mm 【分布】 沖縄諸島、奄美諸島

肋骨が変形してできたゴツゴツした形が名前の由来。原始的な種類で「生きた化石」とも言われる。イモリの仲間だが、幼少期以外は水の中に入らない。夜行性。落ち葉や倒木の下にいることが多い。エサはミミズや小さい昆虫など。4~5月の雨降り後などに見かける機会が多くなる。【沖縄県指定天然記念物】



オキナワウラジロガシ

(沖縄真白樫)
【方言名】 カシギ、アカガシなど多数
【高さ】 10~20m 【分布】 琉球列島

山地に生える常緑の高木。琉球列島の固有種で奄美大島から西表島に分布する。日本最大のドングリ(長さ3cm、径2.5cm)をつける。実は11月~1月に熟する。



リュウキュウハナイカダ

(琉球花筏)
【方言名】 トリフク (奄美)
【高さ】 1~2m 【分布】 奄美大島から沖縄島

石灰岩地の林下に生える落葉低木。琉球列島の固有種で奄美大島から沖縄島に分布する。名前は花を乗せた葉を筏(いかだ)に見立てて名付けられた。花は2月~4月に咲く。



ヒカゲヘゴ

(日陰杓樫)
【方言名】 ミーフィグ、ヒグ
【高さ】 3~10m 【分布】 琉球列島、台湾

明るく湿り気のある山の斜面や谷間に生える木生シダ。ヘゴの仲間は1億年あまり前に地球上に誕生した恐竜時代の大形シダの生き残りといわれる。新芽は巨大なゼンマイのようで、食べることが出来る。



クロイトカゲモドキ

【方言名】 アシハブ、ジーハブなど
【体長】 75~80mm
【分布】 沖縄島とその周辺離島のみ

沖縄島とその周辺離島にだけむ固有亜種のトカゲモドキ。一見してトカゲのようだが、ヤモリの仲間。体の大きさが15cmくらいあり、夜間に活動する。古い時代の生き残りと考えられ「生きた化石」とされている。【沖縄県指定天然記念物】



シリケンイモリ

【方言名】 ソーミグヤー
【体長】 50~80mm 【分布】 沖縄諸島、奄美諸島

尾っぽの先がとがり剣のような形をしている。お腹は赤い、皮膚にテトロドトキシシン毒がある。エサはミミズや小さい昆虫など。年中通して見ることが出来る。雨降り後は出遭う確率大!



アオミオカタニシ

【方言名】 オールーチナン (青いかたつむりの意)
【殻径】 約15mm
【分布】 南西諸島、台湾、バブアニューギニア

奄美群島では絶滅したと考えられている。タニシの特徴として殻に蓋がついている。鮮やかな緑色をしているが、これは殻の色ではなくタニシ本体の色なので、死骸を見てもカタツムリと見分けがつかない。



コゲラ

【方言名】 キーッチャー 【体長】 15cm
【分布】 ロシア南東部、朝鮮半島北部、日本列島など

日本全国の森林地域にすむ小型のキツツキ。「ギーギー」ときしむような鳴き声で鳴く。沖縄島産は本土産に比べ色が濃く、亜種リュウキュウコゲラとされている。



コモウセンゴケ

(小毛銚苔)
【方言名】 キンシンクショウグー
【高さ】 5~15cm 【分布】 本州から熱帯アジア

養分の少ない山すそや道ばた、半湿地に生える多年草で食虫植物の仲間。葉で虫を食べる方法は、①葉の毛先からネバネバした液を出す→②その粘液(ねんえき)に虫がつくと葉で虫を包みこむ→③消化液を出して溶かした虫の栄養分を葉が吸収する。



コバノミヤマノボタン

(小葉之深山野牡丹)
【方言名】 なし
【高さ】 0.5~1m 【分布】 沖縄島北部

深い山の斜面や川沿いの崖に生える低木。沖縄島の固有種で沖縄島北部のみに分布する。日本と沖縄県の絶滅危惧植物に指定されている。花は6月~7月に咲く。



キノボリトカゲ

【方言名】 アタクー、ウートオーヤー、コーレグスケーなど多数
【体長】 60~80mm 【分布】 沖縄諸島、奄美諸島

夏場、ハイキングコースで見ることが出来る。特に天気の良い日は多くの個体に会う。主に樹上で生活をしている。逃げる時はらせん状に木を登っていく。エサは昆虫。鮮やかな緑色をしているオスは縄張りを持っていて、他のオスが近づくと腕立て伏せの威嚇行動をとる。



リュウキュウハグロトンボ

【方言名】 アーケージャー
【体長】 64mm 【分布】 沖縄島、徳之島、奄美大島

山間の森林に囲まれた清流に生息している。オスは鮮やかな金属光沢の緑色、メスは褐色。夏場に名護岳の沢コースに行くとき大きなクワズイモの葉の上で群れている個体を確認する事が出来る。



アオバラヨシノボリ

【方言名】 イーブー
【全長】 60mm 【分布】 沖縄島北部

沖縄島北部固有種。類(ほほ)の斑点や、背びれや尾びれにもほとんど模様がないのが特徴。本種の名前は、成熟したメスの腹部が青色になるところに由来する。孵化(ふか)した仔魚(しぎょ)は海に降ることなく一生を淡水域で過ごす。



ノグチゲラ

【方言名】 キータタチャー
【体長】 約31cm 【分布】 沖縄島北部

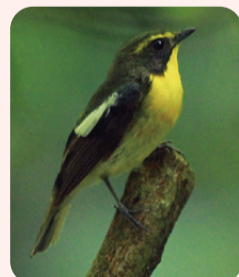
沖縄島北部の森林にすむ固有のキツツキ類。沖縄県の県鳥で、国指定特別天然記念物。主に林齢のすすんだ常緑広葉樹林に生息し、4月から6月頃に枯れ木に穴を掘り、営巣・育雛する。最近名護岳周辺でも目撃され、定着が期待されている。【国指定特別天然記念物】



リュウキュウキビタキ

【方言名】 なし
【体長】 約14cm 【分布】 屋久島以南の琉球列島

キビタキの亜種。林齢のすすんだ常緑広葉樹林に生息する。初夏に木の「うる」などに営巣し、育雛する。最近名護岳周辺でもしばしば目撃され、定着している。なお本亜種を独立種とする考え方もあり、その考えに従うと琉球列島の固有種となる。



サンコウチョウ

【方言名】 ズナギヤ
【体長】 約45cm 【分布】 琉球列島

県内各地の低地から山地の森林地域に夏鳥として渡来し、ヒナを育てる。オスは長いリボンのような尾羽を持っている。鳴き声はヒーローフィ、ポイポイ。聞きななしは「ツキヒーホシ(月日星)ホイホイ」で、このことから「三光鳥」と呼ばれる。



コノハチョウ

【方言名】 ハベル 【前翅長】 40~50mm
【分布】 国内は沖縄島、石垣島、西表島、与論島が北限

枯れ葉そっくりに擬態(ぎたい)したチョウとして有名。幼虫はセイトカスズムシソウやオキナワスズムシソウを食草とし、名護岳でも普通に見られる。【沖縄県指定天然記念物】



アサギマダラ

【方言名】 ハベル 【前翅長】 50~60mm
【分布】 国内は関東以南

前翅(ぜんし・前パネ)の地色は黒、後翅(こうし・後ろパネ)は茶色、中央部は半透明のライトブルー(浅葱色)。渡りをするチョウとして知られ、海を渡り1000km以上も移動する。沖縄では秋季から初夏にかけて見られる。



リュウキュウサンショウクイ

【方言名】 なし
【体長】 20cm 【分布】 沖縄島、八重山諸島

森林に生息するサンショウクイの仲間。森林上空を「ヒリリ、ヒリリ…」と鳴きながら飛び回る姿がよく見られる。本土に夏鳥として飛来するサンショウクイは、県内では旅鳥。なお、琉球列島産を独立種とする考えもある。



アカショウビン

【方言名】 コッカー、コッコレーなど
【体長】 約27cm 【分布】 琉球列島

夏鳥として全国的に渡来し、県内では4月頃からうっそうとした森林地域の河川沿いなどで普通に見られる。主にカエル類やカニ類、カタツムリなどを捕らえてエサにする。大木の「うる」やキツツキ類の古巣、アリの巣などを使って営巣し、ヒナを育てる。9月には若鳥とともに東南アジア地域まで南下して越冬する。沖縄産は全体的に紫色が強く、亜種リュウキュウアカショウビンとして区別される。



登山・ハイキングの際の注意事項

靴ひもはしっかり結んでおきましょう / サンドルやスリッパは危険ですので避けましょう / 山道では、木の根っこや石に注意して歩きましょう (転倒、捻挫等) / 木の階段は濡れると滑りやすいので、雨の後や日陰のコースでは注意してください / コース内にはトイレはありません。名護青少年の家で済ませておいてください / 夏場は水筒等を用意して、飲み物を必ず携帯してください。名護青少年の家に自動販売機もあります / 熱中症対策のため、塩飴玉などあればグッド / 山の中では、むやみに動植物を採取してはいけません / ゴミはすべて持ち帰りましょう。可能であれば、山中でゴミを見つけたら拾って持ち帰りましょう。1人が1つ拾えば、それだけ山がきれいになります / 夏場の暑い時期はブヨに注意してください。虫よけスプレーが有効です / 大雨や台風後は、がけ崩れ、倒木等に注意が必要です / 服装は、露出が少ないものが好ましいです。夏から秋にかけては、スズメバチが寄ってくるので黒っぽい服装は避けて、白っぽい服装をしましょう / 万が一のため、携帯電話を持ち歩いてください / 安全のため、名護青少年の家事務所で受付を行い、直近の山の情報を入手してください。

緊急時は、名護青少年の家 (0980-52-2076) までご連絡ください。